

## 第31回「ハートミーティング」意見交換の内容について 「環境にやさしい食生活への改善」プロジェクトチーム

---

### ★参加メンバーからの主な声

- 当プロジェクトチームは、日々の生活に欠かせない「食生活」について、「環境」という視点から問題提起を行おうと平成22年12月から活動を開始した。
- まずは「環境にやさしい食生活とは何か」という点から議論を始め、様々な業務に携わるメンバー同士が、「食」や「環境」に関する情報を共有しながら、平成23年6月には、大学生等を対象に、「京都の伝統的な知恵を生かした環境にやさしい食生活」を提案する冊子「しぶちん」を発行した。
- 作成に当たっては、若い人に興味を持って冊子を手にとってもらえるよう、特にタイトル名に拘った。通常あまり良い印象のない「しぶちん」という言葉に、「かしこくエコを実践する人」という新しい意味を加えることで、そのギャップがインパクトになることを狙った。
- また、食生活にメリハリをつけるというメッセージを、遊び心を込めて伝えるため、「出すところは出す。締めるところは締める。」ということで、鹿ヶ谷かぼちゃを表紙にするなど、メンバー自身も楽しみながら取り組むことができた。
- プロジェクトチームの活動を通して、メンバーそれぞれの思いを結集させ、絆を深め、形にしていく過程を共有できたことは、普段の業務を越えた非常に有意義な経験となった。

★市長からのコメント

- 環境問題と「食」は深い関わりがある。例えば、「食べ物をその食材がおいしい時期に食べる」ことでも、環境への負荷は減らすことができる。
- 最近、「食べ放題」、「飲み放題」という言葉があふれているが、「食べ残し」、「飲み残し」は特に環境への負荷が大きいといわれている。一人一人が自分にあった適度な量を食べるという意識を持つことも大切である。
- 今回皆さんが作成した冊子「しぶちん」は、ネーミングが大胆でおもしろく、内容も素晴らしい。市民の皆さんに「環境にやさしい食生活への改善」についての意識を高めていただける、大変良いものに仕上がっていると思う。
- 今後もこうした取組を継続的に行うことが重要である。同時に、意識を行動に移していくために、無理せず楽しみながら取り組んでいただける工夫が必要である。
- 例えば、「昼休みを利用した環境にやさしいお弁当づくり教室」など、まずは市職員が率先して取り組めることを考えてみても面白いのではないか。